

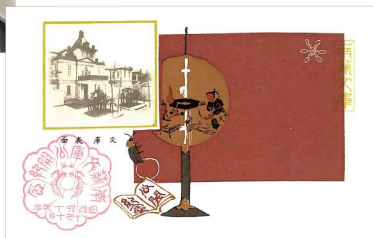
## 南葵文庫 NANKI BUNKO



南葵文庫閲覧室 音楽資料の閲覧は1920年10月に開始



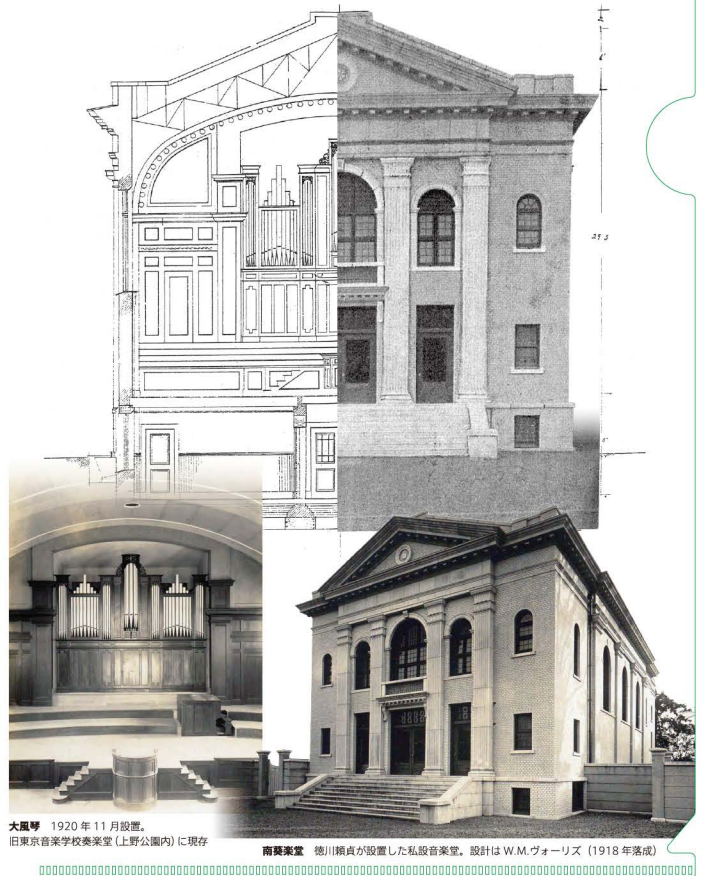
南葵文庫公開記念カード (1907)



南葵文庫  
徳川頼倫が自邸内に設置した私設図書館



## 南葵音楽文庫 NANKI MUSIC LIBRARY



大風琴 1920年11月設置。  
旧東京音楽学校奏楽堂(上野公園内)に現存

南葵楽堂 徳川頼倫が設置した私設音楽堂。設計はW.M.ヴォーリス(1918年落成)

# 南葵音楽文庫アカデミー 令和2年6月開講

和歌山県立図書館は、南葵音楽文庫プレオープン(2017年)以来、文庫が所蔵する資料およびコレクションの基礎を築いた徳川頼貞を中心に、定期講座やミニレクチャーをつうじて、その内容や魅力を紹介してきました。今般、約2万点の資料整理が完了するにあわせ、より深く、さらに広い視座から、明治以降の紀州徳川とそこに連なる人々の文化貢献とともに探り、ここ和歌山でその実際に触れ、意味と魅力を感じとることを目指したアカデミーを開講します。

かつて紀州藩は多くの優れた藩校をもち、明治をむかえた和歌山には、進取的な学舎が各地に設けられました。南葵音楽文庫とその資料を契機として、さらなる理解と学びの輪が育まれますことを期待します。

### 「南葵」の由来

徳川頼倫が1899(明治32)年12月に東京の私邸に設置した私設図書館を、旧封地南紀と家紋の葵とに因み、「南葵文庫」と命名したことに始まります。

### 主催

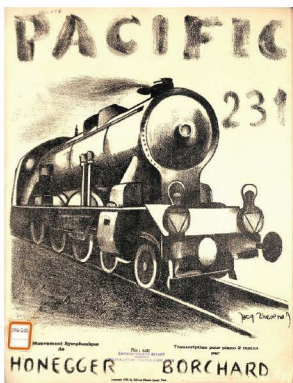
和歌山県教育委員会

新宮市教育委員会(新宮会場のみ)

橋本市教育委員会(橋本会場のみ)

※お問い合わせは…

和歌山県立図書館サービス課 ☎073-436-9520  
〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38



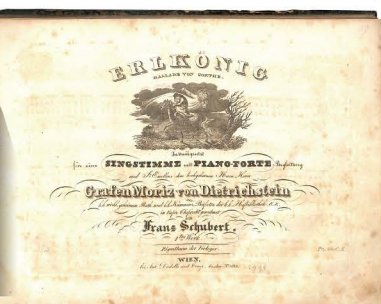
シューベルト  
ゲーテの詩によるバラード《魔王》作品1 初版 (1821) トピラ



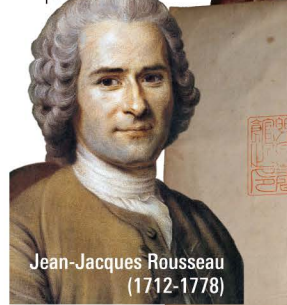
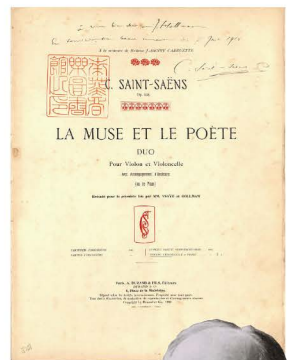
松山芳野里《5つの日本的な歌曲》  
(パリ、1922) から《江戸の歌》  
挿画もパリ在住だった松山による。



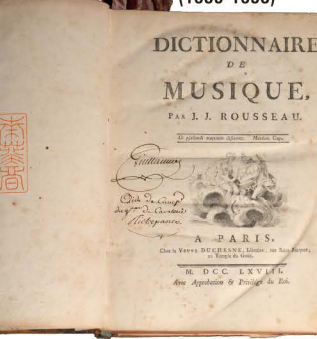
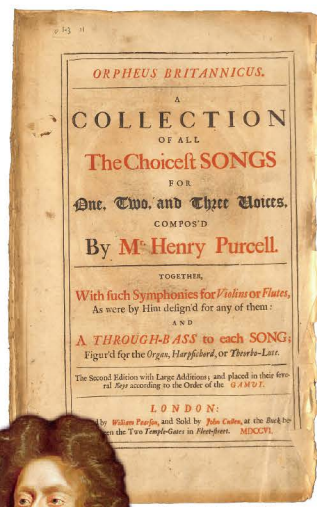
▲NHK放送オペラ Yoshinori Matsuyama  
「カルメン」(1932.6.19) 出演者 (1891-1974)



# 南葵音楽文庫は新ステージへ...



《音楽事典》  
思想家ルソーが独りで著した。18世紀に出た4種の刊本を所蔵。



思想家ルソーが独りで著した。18世紀に出た4種の刊本を所蔵。



《日本の歌》特装版(1908)  
大指揮者ワインガルトナーが  
徳川家に寄贈した自作のピアノ伴奏  
歌曲集。署名入り。  
歌詞は和歌の独訳と英訳。



南葵文庫 南葵文庫 南葵楽堂 南葵音楽図書館

南葵音楽文庫アカデミーは、南葵音楽文庫の資料を軸に、南葵文庫、また幕末明治以降の紀州和歌山や南葵徳川にかかわる文化を、さまざまな角度、視点から照らし、学びを深める講義(カレッジ)と、そのエッセンスを今日の和歌山に広め根付かせる活動でもある演習(セミナー)の開催を通じ、新たに画像や映像、文字記録を追加、収集、集約してゆきます。また、それらを編集し「Newsletter南葵文庫」紙上で紹介するとともに、広く利用可能な公共財として蓄積いたします。詳細はカレッジやセミナーにて、説明する予定です。

## カレッジとセミナー

南葵音楽文庫アカデミーは、カレッジとセミナーを開講します。



**カレッジ** 教室のように机が配置された会場で、講義形式による講座です。



**セミナー** 原則、和歌山県立図書館(本館)南葵文庫閲覧室で、大きな机を囲み、資料や文献を用いた演習形式で行われます。

# 金曜カレッジ

3年前、和歌山に「里帰り」してから、短い期間ではありましたが、従来知られなかった事実や価値がつつぎに明らかになった南葵音楽文庫。この間の調査をふまえ、いまあらためてこの稀有なコレクションがもつ凄み、演奏する立場からの魅力、資料が語り出す物語、蒐集者徳川頼貞の手をはなれた後この文庫がたどることになった運命と、この至宝を秘匿から公開へむけなされた努力のあつたところを紹介し、金曜カレッジは、それぞれに深く関わってきた当事者・担当者自身が、この機会に和歌山に参集して語る8つのレクチャーで構成されています。

# 土曜カレッジ

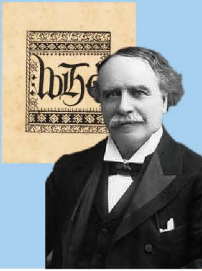
近代の和歌山は、県内各地から文化の先覚者、教育の先導者、社会への貢献者を輩出しました。南葵音楽文庫アカデミーは、このような人々と音楽との、紀州徳川との繋がりや照応を探り紹介するとともに、金曜・日曜カレッジの「出前」をおこないます。今年度は、紀伊藩の附家老であった水野氏（新宮、丹鶴城）、安藤氏（田辺城）の城下、旧大和街道の要衝として知られた町で開催いたします。地域との協働（共催）によるカレッジでは、会場で南葵音楽文庫を紹介するパネル展示をおこなう場合もあります。

## Colleges THE ACADEMY OF NANKI MUSIC LIBRARY

夏

### 稀有な収蔵 カミングスとスナール

Jun.  
12-14



つねに南葵音楽文庫の柱を言われてきたカミングス文庫、3年前まで存在すら知られていなかったスナール室内楽シリーズ。共に400点余からなる資料が、なぜ、どのようにして南葵音楽文庫に入ったのか、この3年で明らかになった点をふまえ、もとの蒐集者カミングス、出版者スナールの人物像、活動、資料の特徴や価値を語ります。(担当：佐々木勉、近藤秀樹)

### 佐藤春夫と音楽 **新宮**

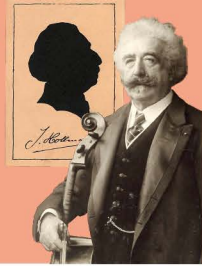


ともに1892（明治25）年生まれ。歩んだ道は異なりますが、徳川頼貞が東京に設けた音楽図書館には紀州の脈が輻輳し、紀州藩士の血をひく佐藤春夫も音楽と響き合うこととなります。いままで言及がほとんどされてこなかった側面を素描する試みです。(担当：美山良夫/南葵音楽文庫に宿る「魂」、林淑姫/佐藤春夫と音楽)

秋

### J.ホルマン：人、音楽とその魅力

Sep.  
11-13



不世のチェロ奏者ホルマンの逝去後1000点をこえる楽譜は親交のあった徳川頼貞の許に届けられました。そこには1世紀まえの世界的な音楽家が、音楽に向かう直向きな姿勢、多くの作曲家との交友が刻まれ、自身で書いた作品には楽器への愛と感謝が溢れています。その真実と魅力を、ホルマン作品を多数日本初演してきた演奏家とともに紹介します。(担当：美山良夫、林 裕)

### 英国/アイルランドの風 **橋本**



カミングス文庫には、アイルランド、スコットランド、そしてむろんイングランドの音楽を集めた楽譜が多数伝えられています。南葵音楽文庫を特徴づける資料を紹介し、今はしられることの少ない音楽家の生活、音楽の伝承を、長くアイルランドにあってその音楽風土を熟知する音楽家とともに、演奏をまじえ探訪します。(担当：守安功、守安雅子ほか)

冬

### 文庫の行方：失われた40年、だが…

Dec.  
4-6



戦後いったん仮公開されたものの1977年から再び「お蔵入り」に。しかしこの貴重な資料群をふたたび社会に開こうとする努力は、地道に続けられました。そのただ中であつた方々から直に、どこで誰がどのように保管していたか、文庫公開へ向け何が行われてきたかをお話いただけます。(担当：松下鈞ほか)



### 人物論・徳川頼倫 **田辺**

#### 《ミカド》《ゲイシャ》《蝶々夫人》 ：西洋から見た日本像

南方熊楠を支援し、史蹟名勝天然記念物の保存や図書館の発展に心血をそそいだ徳川頼倫。<知の高等遊民>ともいうべき人物像を素描します。また、彼が生きた時代に作曲された3つの作品から、そこに映された日本像のうつりかわりを紹介します。ちなみに徳川頼貞は《蝶々夫人》の作曲者プッチーニと直接語りあいました。(担当：林淑姫、泉 健)

春

### 熟覧と細見 資料が語るヒストリー

Mar.  
5-7



沈黙している資料も、じっくり観覧したり、細かく検分してみると、突如みずからの出生の秘密を、主人とその人となり、いま和歌山にあるまでの流転を語り始めます。資料そのものが語る自分史と物語を、傍証や、ときには推理をまじえて紹介します。(担当：近藤秀樹、佐々木勉)

#### 重要資料説明会 [入場自由、申込不要]

令和3年3月6日(土) 11:00~12:00

和歌山県立図書館(本館) 南葵音楽文庫閲覧室

令和3年度選定した南葵音楽文庫重要資料の紹介をします。

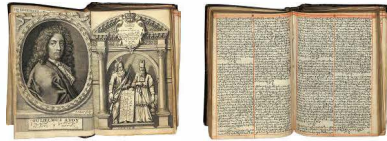
#### 南葵音楽文庫書庫見学会

金曜カレッジおよび日曜カレッジを通年で履修している方を対象に南葵音楽文庫の書庫見学会を開催します。

日時等の詳細は秋以降に発表します。

# 日曜カレッジ

紀州徳川400年。しかし明治維新以後は旧藩主の家系と紀州/和歌山のつながりは十分語られてはきませんでした。日曜のカレッジは、人とその脈、南葵文庫/南葵音楽文庫をはじめとする社会事業、遺された著作や遺構などを順次丹念にとりあげ、「南葵文化」再発見につなげます。



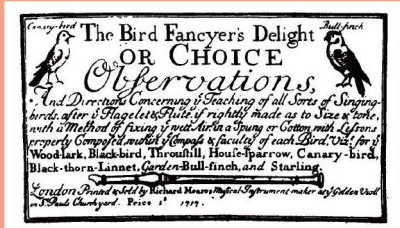
正本『聖書』(1687年初版)縦12cm

## 徳川頼貞を知る第一歩

徳川頼貞が東京に設けた音楽図書館には紀州の脈が輻輳し、彼の音楽半生記である『菅庭楽話』の私家版には、市販本では省かれ変更された彼の交友や思考が刻まれていました。真の頼貞を知るための基本の基本を語ります。(担当:美山良夫/南葵音楽文庫に宿る「魂」、泉健/徳川頼貞2つの『菅庭楽話』)



## 英国/アイルランドの風



土曜カレッジと同じ。  
(担当:守安功、守安雅子ほか)

## 人物論・徳川頼倫/人物論・徳川頼貞



南方熊楠を支援し、史蹟名勝天然紀念物の保存や図書館の発展に心血をそそいだ徳川頼倫。<知の高等遊民>ともいうべき人物像を素描します。彼の息子徳川頼貞。彼の南葵楽堂の設立と運営からは、一貫した理念やポリシーが読み取れます。自らの考え方について、語ることも書き残すことも少なかった頼倫と頼貞の人物像試論です。(担当:林淑姫ほか)

## 紀州徳川ゆかりの建築遺構 岩出

和歌浦にあった双青寮。その建築のうちから海南市の篤志家によって解体移築され、亀池公園(海南市)に現存する双青閣をとりあげ、歴史や建築の特徴を解説します。その後、会場である一乗閣(旧和歌山県議会議事堂、国の重要文化財)を講師とともに見学します。(担当:中西重裕)



# セミナー

南葵音楽文庫とその所蔵資料を起点に、さらに広い範囲と視座から、明治以降の紀州徳川とそこに連なる人々の文化貢献を講師とともに探り、可能な限りその実際に触れながら学ぶ演習です。

## スケジュール (令和2年5月21日現在)

各回の内容、担当講師は追加ないし変更場合があります。課題はガイダンス以降順次発表します。

- 6月14日 ガイダンス
- 7月12日 南葵文庫/南葵音楽文庫とその資料、関連する基本情報 (担当:美山良夫)
- 8月9日
- 8月30日 徳川頼貞と喜多村進:和歌山県立博物館企画展に際し (担当:林淑姫)
- 9月13日 資料の見方、読み方、扱い方:カミングス文庫貴重資料を例に (担当:佐々木勉)
- 10月11日 頼倫と頼貞:図書館人として (担当:林淑姫)
- 11月8日 徳川頼貞とオルガン:南葵楽堂オルガン設置100年 (担当:近藤秀樹)
- 12月6日 大正期の関西音楽界 (担当:塩津洋子)
- 1月10日 セミナー履修生による報告・発表
- 3月7日 紀州徳川ゆかりの建築遺構:湊御殿、名草御殿 (担当:中西重裕)

### ■セミナーの進めかた

原則として、あらかじめお知らせした課題について、各自学習し、セミナー当日は、講師等が軸になって質疑などをまじえた演習をおこないます。講師により課題の有無を含め進めかたは異なります。

### ■セミナーの履修

年間通じて参加できる履修者のみで、聴講者は募集しません。履修にあたり、課題文献の用意、見学場所の入場料など、費用負担が生じる場合があります。





# 講師紹介

50音順



使徒書簡および福音書の朗唱法  
(1500年頃)



**泉 健**  
いずみけん

和歌山大学名誉教授。東京芸術大学大学院音楽研究科修了。著書に『音階と日本人』(柳原書店,1995)、共著に『音の今昔』(弘文堂,1996)、『西洋音楽の歴史』(東京書籍,1996)。異文化受容の際の文化変容に関心があり、これまで、明治以降の西洋音楽の受容によって、日本人の音階に関する音楽的感性がどのように変化してきたかということや、1900年(明治33)前後のベルリンで、西洋人が日本の伝統音楽をどのように受容したかを研究。現在和歌山大学、京都女子大学、和歌山県立医科大学、近畿大学で講師。



**近藤秀樹**  
こんどうひでき

大阪教育大学、京都造形芸術大学、関西大学非常勤講師。京都フランス歌曲協会企画委員。シニアCITYカレッジ(NPO法人シニア自然大学校)で音楽講座を担当。主な論文に、「音楽のアール・ヌーヴォー——植物誌の試み」(山根郁信編『別冊太陽アール・ヌーヴォー——ガレ、ドーム、ラリックの煌き』、平凡社、2006年)、訳書にV.ジャンケレヴィッチ『遙かなる現前——アルベニス、セヴラック、モンポウ』(春秋社、2002年)。



**佐々木勉**  
ささきつとむ

元名古屋音楽大学教授、慶應義塾大学、立教大学、放送大学非常勤講師。立教大学、武蔵野音楽大学大学院、ロンドン大学キングス・カレッジ・ロンドン大学院で音楽学、西洋音楽史を学ぶ。主要論文に"The Dating of Aosta Manuscript from Watermarks" (国際音楽学会 International Musicological Society, Acta Musicologica, 第64巻1号、1992年)、訳書に『中世キリスト教の典礼と音楽』(共訳、教文館、2010年)、ガイド・ダレッツォ『ミクロログス(音楽小論)』(共訳、春秋社、2018年)など。



**中西重裕**  
なかにししげひろ

建築家。長崎総合科学大学工学部建築学科卒業後、伊藤喜三郎建築研究所を経て独立、K & Nアーキテクツを設立。(社)和歌山県建築士会副会長などの他、和歌山県立和歌山工業高等学校の非常勤講師も務める。建築作品では、秋葉交番・8の字公園公衆トイレ・藤白神社公衆トイレ・集合住宅プラージュ和歌浦など多数。「まち歩き」をライフワークとしており、歴史的造物の調査を行っている。全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会運営副委員長を務める。主な著書『わかやまワクワク探検隊』(和歌山新報社、2002)



**林 裕**  
はやしゆたか

東京芸術大学卒。日本音楽コンクール第一位、黒柳賞を受賞。アフィニス文化財団、ローム音楽財団の奨学生として、フライブルク音楽大学院を首席修了。青山音楽賞、松方ホール音楽賞大賞、大阪文化祭賞グランプリ、音楽クリティッククラブ賞本賞、文化庁芸術祭優秀賞を受賞。CD『SOLO ist』がレコード芸術の特選盤になった。いづみシンフォニエッタ大阪のメンバー。ポップアーチェロコンクール審査員長。元相愛大学准教授、神戸女学院非常勤講師。セルヴェ協会名誉会員。



**松下 鈞**  
まつしたひとし

上智大学卒。国立音楽大学附属図書館主任司書(1971-2003)、音楽図書館協議会事務局長(1971~2001)、近代音楽館を設立する会事務局長(1984-87)。藤女子大学教授、帝京大学総合教育センター教授、千葉大学、東京芸術大学、明治大学兼任講師を歴任。主要著作等:「日本の音楽図書館 音楽図書館協議会40年のあゆみ」(音楽図書館協議会、2019)、「情報検索講義」(樹村房、2015)、「異文化交流と近代化 京都国際セミナー1996」(紀伊國屋書店、1998)、「電子化する情報と図書館」(紀伊國屋書店、1997)等



**美山良夫**  
みやまよしお

慶應義塾大学名誉教授。慶應義塾大学文学部、同大学院(美学美術史学専攻)に学ぶ。同大学文学部教授、アート・センター所長、読売日本交響楽団理事等を歴任。西洋音楽史、アート・マネジメント研究。主な著書等:『音楽史の名曲』(共著、春秋社、1981)、『フォーレ:ピアノ音楽全集』(校訂等、春秋社、全5巻1986~2006)、『文化観光:観光のリマスタリング』(共著、慶應義塾大学アート・センター、2010)



**守安雅子**  
もりやすまさこ

アイリッシュ・ハープ奏者、コンサーティーナ奏者。守安功と共に、1990年代より毎年、アイルランドに1年の3分の1の期間滞在し、変わりゆくこの国を見つめつつ、今は亡き名人たちを含む、アイルランドのさまざまな地方の演奏家たちから教えを受ける。その活動は、ドキュメンタリー番組にもまとめられ、アイルランド国営放送でも放映された。伝統的な奏法をベースにしながら、アイルランドとスコットランドの、17世紀から19世紀の音楽の発掘と演奏や、新しく作られた名曲の紹介なども積極的に行っている。

**守安 功**  
もりやすいさお

リコーダー奏者、フルート奏者。桐朋学園大学音楽学部古楽器科卒、同研究科修了。在学中、第10回全日本リコーダーコンクール独奏部門において最優秀賞及び朝日放送賞を受賞。和歌山県芸術新人賞受賞。国立音楽大学、桐朋芸術短期大学講師を経て、今では、バロック音楽とアイルランドと英国の伝統音楽について、独自の視点から、日本各地でレクチャー、レッスン、演奏活動を行いつつ、ヨーロッパの美術や宗教についての旅のガイドも行っている。アイルランドの音楽、ダンス、文化、歴史についての著書8冊。



**林淑姫**  
りんしゅくき

早稲田大学文学部卒。図書館短期大学別科修了。ミシガン大学大学院中退。元日本近代音楽館事務局長・主任司書。元明治学院大学大学院客員教授、非常勤講師。日本近代音楽史研究。主な著書等:『日本の音楽図書館—音楽図書館協議会40年のあゆみ』(共著、音楽図書館協議会、2019)、『近代日本芸能年表』(共著、ゆまに書房、2013)、秋山邦晴『昭和の作曲家たち』(編、みすず書房、2003)、中村洪介『近代日本洋楽史序説』(監修、東京書籍、2003)

## 履修と聴講

南葵音楽文庫アカデミーの受講は、通年の履修と各回毎の聴講があります。

	金曜カレッジ 14:00~16:00	土曜カレッジ 13:30~15:30	日曜カレッジ 10:00~12:00	セミナー 13:30~15:30
夏	<del>6/12</del> 8/7	新宮 <del>6/13</del> 8/8	<del>6/14</del> 8/9	<del>6/14</del> 、 <del>7/12</del> 、8/30
秋	9/11	橋本 9/12	9/13	9/13、10/11、11/8
冬	12/ 4	田辺 12/ 5	12/ 6	12/6、1/10
春	3/ 5	*	岩出 3/ 7	岩出 3/7

\* 3/6 (土) 11:00~12:00 は、重要資料説明会 (南葵音楽文庫閲覧室) 聴講自由、申込不要です。

履修…金曜カレッジ (4回)、日曜カレッジ (4回)、セミナー (ガイダンス+8回) の3コースがあり、そのうち2コースまで申し込めます。希望者が各20名をこえた場合は抽選です。

聴講…各カレッジは、回ごとでも聴講できます。履修者を含む定員は60名です。

## 定員および会場

カレッジの定員は60名 (履修者+聴講者合計)、セミナーの定員は20名です。

	履修者	聴講者	会場
金曜カレッジ	20名	40名	和歌山県立図書館 (本館) 2階 講義研修室
土曜カレッジ	—	60名	新宮会場 ( <del>6/13</del> ) 新宮市役所 庁舎別館 1階 大会議室 8/8 橋本会場 (9/12) 橋本市教育文化会館 3階 第1研修室 田辺会場 (12/5) 和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室 1
日曜カレッジ	20名	40名	和歌山県立図書館 (本館) 2階 講義研修室※注1
セミナー	20名	—	和歌山県立図書館 (本館) 1階 南葵音楽文庫閲覧室※注1

(※注1) 3/7 (日) のみ、岩出会場：旧和歌山県議会議事堂 (一乗閣) 岩出市根来 2347-22 になります。



和歌山県立図書館



新宮市役所 庁舎別館



橋本市教育文化会館



Big・U



旧和歌山県議会議事堂

## お申し込み方法

お近くの図書館にお越しいただくか、Webから参加申込書をダウンロードしてご提出ください。

	受付開始日	締切日	7月15日 (水)
履修者	令和2年4月14日 (火)	令和2年 <del>5月20日</del> (水)	※締切後、参加の可・不可をお知らせします。
聴講者	カレッジ夏 令和2年4月14日 (火)		
	カレッジ秋 令和2年8月12日 (水)		定員になり次第締め切ります。
	カレッジ冬 令和2年11月5日 (木)		
	カレッジ春 令和3年2月5日 (金)		

※「参加申込書」は、県立図書館および市町村立図書館・公民館図書室に設置しています。

※申込書の様式は、県立図書館Webからダウンロードできます。

<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/>

[南葵音楽文庫]→[企画関連情報]→[南葵音楽文庫アカデミー]

